

Wamセミナー 天皇制を考える

1

沖縄と天皇制

“疑似天皇制”に振り回される女性たち

2025年4月29日(火)

14:00～16:30

お話: 宮城 晴美

明治12年 琉球処分-琉球国から沖縄県へ

ヤマトから軍隊・警察・役人 約500人来島



首里城に入った軍隊

鍋島初代県令

「言語風俗を本州と同一ならしむるは当県施政上の最も急務にして其の法もとより教育に外ならず」

一木内務官僚

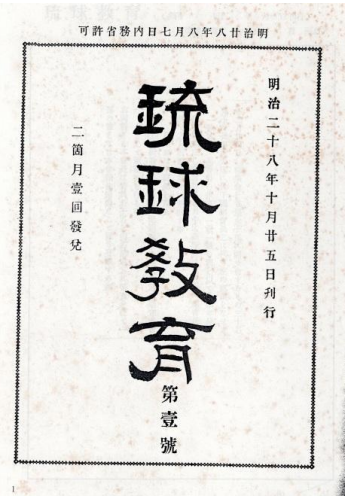
「沖縄人の頑迷の思想を破りてこれを内地の文明に同化せしむるは、教育による外なし」

クレジットのない沖縄県関係写真は那覇市歴史博物館提供

1886年(明治19)1月25日 沖縄私立教育会発足

總裁―県知事
会長―県学務課長
会員―教師・教育関係
者・一般有志

- 天皇制国家の支持基盤として重要な役割を担う
- 忠愛の志気、国家的思想を浸透させる
- 「非日本的」な歴史観や風俗習慣の改良を急務とする
- 『琉球教育』は日本化教育の重要な役割を果たした



「皇民化」教育の促進をねらう

1887年(明治20)12月 沖縄師範学校に御真影を下賜



ご真影の下賜は、東京など中央の一部を除いて地方では初(森有礼)

残り続けた門中制度＝琉球版家父長制

士族層の慣習として儒教道徳を導入

5

＊系図の始祖を頂点とする父系血族の集団⇒祖先崇拜

- 男性血統による嫡子相続
 - 娘を相続から排除
 - 婚姻は家格を重視し親同士が決める
- } 王国時代はゆるやか

＊平民層は一世代のみ 門中制度には無縁

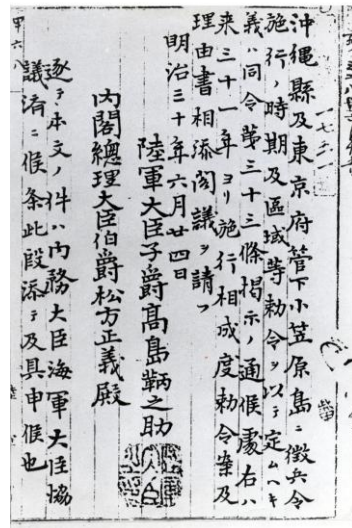
- 相続なし
- 男女対等
- 婚姻は「モウ遊び」で自由恋愛

徴兵令の請議

- 1898年(明治31)
- 沖縄、小笠原に徴兵令施行(日本に25年遅れ)



- 一般住民の風俗改良が徹底される
- 男性の改名
- 「モウ遊び」の禁止



女性の風俗改良



ハジチに刑法の違警罪
を適用(山城博明提供)



琉装から和装へ



ユタの利用禁止

1898年(明治31)7月 民法公布で大騒ぎ

8

- 年齢が制限される(婚姻は、男は満17歳・女は満15歳以上)ことと手続きの面倒で、早婚が相次いだ
- 門中制度を維持してきた士族層は、慣習の域を超えて法制化されたことで、民法を歓迎

●新民法實施と田舎地方の婚姻 新民法の去る十六日より彌々本縣にも實施せらるゝと聞くや田舎地方にては同法實施後は婚姻の手續甚た面倒なる上配偶者間の年齢等にも大々制限せらるゝを以て實施前に於て早婚したる者多々輩出したりとぞなん

琉球新報 明治31年7月19日

門中制度 + 明治民法 = 沖縄独自文化

9

- 長男を絶対とする相続制
- 二男・三男は分家
- 娘は嫁いで夫に仕え、長男を産まなければならない
- 娘に財産の相続権なし
- 娘婿に継がせない

＊明治37年から、平民の土地の私的所有が認められ、身分に関係なく相続制が一般化⇒疑似門中制度⇒家父長制の確立

「同化」政策 = 国民化・植民地化

(1) 非日本人を「日本人化」する政策→教育を手段

- ① 日本語教育 = 固有の母語の否定
- ② 忠誠心培養 = 国家神道・天皇崇拝の心情を養う(伝統的宗教心情を排除)

(2) 「同化」の正否を外面的基準で判断

- ① 衣服や生活習慣等日常生活の変化
 - ・学校→琉装廃止、断髪、改名
 - ・一般→ハジチ禁止、「モウ遊び」禁止、ユタ禁止
- ② 宮城遥拝等儀礼の実行

大正時代の軍事的沖縄人観

11

沖縄連隊区司令官報告—兵卒教育の参考までに

- 皇室国体に関する観念徹底しきらず
- 国家的観念、忠臣孝子、貞婦、烈女の事績を父母の口より聞くこと皆無
- 軍事思想に乏しく軍人となるを好まず
- 早婚、早熟、早老者多し。少女14、5歳にして成熟するもの多し
- 毛遊び等男女交遊多し

『沖縄県の歴史的関係及人情風俗』より

昭和初期 連隊区司令官の沖縄人観



上官に報告するために「沖縄防備対策」(極秘文書)を作成。その中の、沖縄人を批判する内容が露呈

六十萬縣民を輕辱する
石井司令官の怪文書！
ゆがんだ認識で縣民生活を罵倒
十九日、俄然、縣會で糾弾す

▼ 事大思想なり
▼ 依頼心甚だしく強し
▼ 一般に怠惰なり
▼ 一大弊風あり。毛遊びなり。婚時に及ぶ。その間、雑交乱交生育不良操志欠乏に陥る

日本風の名前へ⇒改姓・改名運動

珍奇な名は改めよ
就職や社交上に損をする
沖縄の珍しい運動

縣人の姓名には頗る珍奇なものが多く、就職や社交上に支障を来すことが多いため、東京在住の日本人を以て組織する南島文化協會では珍奇な姓名を改めよとが縣人の利益なりと、積極的に改正運動に乗り出している。

出すことになり、沖縄県は目録として労働と運動中である

なべを花子に
續々と内地化
沖縄の珍名改稱

なべを花子に、續々と内地化、沖縄の珍名改稱。これは、沖縄の方言を内地の言葉に近づける運動の一環として行われている。なべという方言は、花子という一般的な女性の名前に変換される。この運動は、沖縄の文化を内地に近づけ、就職や社交上の利便性を高めることを目的としている。

改姓改名時代
大喜びの願書續々
沖縄県當局の計らひに

沖縄県民の改姓改名の希望が、県當局に送られてくる。これは、沖縄の方言を内地の言葉に近づける運動の一環として行われている。改姓改名の希望者は、希望する新しい名前と理由を記載した願書を提出する。県當局は、これらの願書を審査し、承認された場合は改姓改名の手続きを進める。この運動は、沖縄の文化を内地に近づけ、就職や社交上の利便性を高めることを目的としている。

【大阪朝日新聞】1935年7月18日

移民・出稼ぎが増えるにつれ、沖縄的な苗字や名前の改姓改名が進んだ

「大阪朝日新聞」(左:昭和11年・右:昭和10年)

方言の殲滅へ
着々進む沖縄の標準語化運動

方言の殲滅へ、着々進む沖縄の標準語化運動。これは、沖縄の方言を標準語に近づける運動の一環として行われている。方言の殲滅とは、方言を標準語に置き換えることを意味する。この運動は、沖縄の文化を内地に近づけ、就職や社交上の利便性を高めることを目的としている。

沖縄人自らが日本化をめざす動きに

沖縄人自らが日本化をめざす動きに。これは、沖縄の方言を標準語に近づける運動の一環として行われている。方言の殲滅とは、方言を標準語に置き換えることを意味する。この運動は、沖縄の文化を内地に近づけ、就職や社交上の利便性を高めることを目的としている。

●沖縄県と日本民藝協会による方言論争起る

【大阪朝日新聞】1939年8月26日

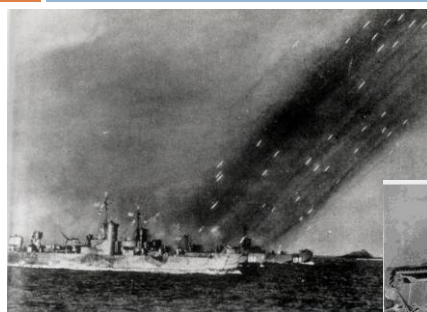
「皇民化」教育と軍国主義教育の 婦人版教科書

15



歩き方」座り方」愛嬌と礼節」
早婚の奨励」女は素直でおとな
しくなければならぬ」、「日本語
での正しいあいさつの仕方など、
大日本婦人会の常会で指導書と
して使用（昭和18年発行・実際は19年）

1945年3月26日～ 米軍、慶良間・沖縄本島・伊江島に上陸



沖縄県公文書館蔵



戦時下家父長制の結末―「集団自決」



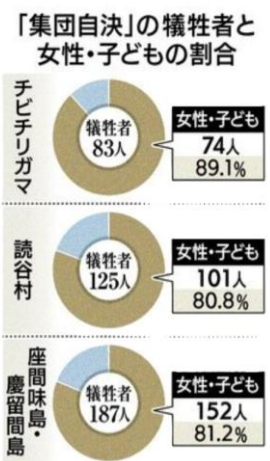
RG, Series Item: 127-GW-118031

二人の子どもを手につけ、一人生き残った女性

上陸した米軍を前に、パニックになった住民の「集団自決」が起こった

80%超えの女性・子どもの死

18

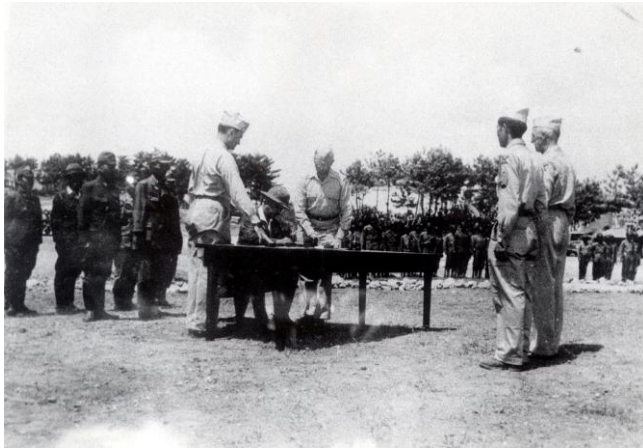


- 住民の敵への投降厳禁
- 敵に捕まると、女は強かんされるか、「朝鮮ピー」のようにされる(ピーとは「慰安婦」)
- 男手のある家族ほど犠牲は大きかった
- 皇軍の命令⇒地元指導者による伝令⇒家長(代行者)家族を「守る」ために、妻子・母・姉妹を手にかける

宮城調査;『沖縄タイムス』2025.4.6

米軍単独の沖縄占領へ

19



1945年9月7日、嘉
手納基地で降伏文書に
調印する米軍と日本軍

敗戦後の社会状況

- 1945年(昭和20) 米軍は現行(戦前)法規の施行を命ずる⇒明治民法適用
- 1946・47年(昭和21・22)戸籍簿焼失による混乱期 ⇒戸籍改製にあたり、近代の家族形態を維持。男児を産まない妻追い出し、再婚など(婚姻率が高かった)。妻妾同居も
- 男性のアルコール依存⇒敗戦の精神的痛みからの逃避／貧困問題と男尊女卑の文化＝DVへ

DECLASSIFIED
Authority: 100-260252
By: 100-260252

Memorandum to Dispatch No. 1294 dated September 22, 1947 from the
United States Political Adviser for Japan, Tokyo, on the subject
"Supreme of Japan's Opinion Concerning the Future of the Ryukyu
Islands".

COPY

GENERAL HEADQUARTERS
SUPREME COMMANDER FOR THE ALLIED POWERS
Diplomatic Section

CONFIDENTIAL

20 September 1947

MEMORANDUM FOR: General Headquarters

Mr. Wilmont Tennant, an adviser to the Emperor, called by
appointment for the purpose of conveying to me the Emperor's ideas
concerning the future of Okinawa.

Mr. Tennant stated that the Emperor hopes that the United
States will continue the military occupation of Okinawa and other
islands of the Ryukyus. In the Emperor's opinion, such occupation
would benefit the United States and also provide protection for
Japan. The Emperor feels that such a move would meet with wide-
spread approval among the Japanese people who fear not only the
armies of Russia, but after the occupation has ended, the growth of
rightist and leftist groups which might give rise to an "incident"
which Russia would use as a basis for interfering internally in
Japan.

The Emperor further feels that United States military occupation
of Okinawa (and such other islands as may be required) should be
based upon the fiction of a long-term lease--25 to 50 years or more--
with sovereignty retained in Japan. According to the Emperor, this
method of occupation would convince the Japanese people that the
United States has no permanent designs on the Ryukyu Islands, and
other nations, particularly Soviet Russia and China, would thereby
be deprived of any demanding similar rights.

As to procedure, Mr. Tennant felt that the negotiation of
"military base rights" (of Okinawa and other islands in the Ryukyus)
should be by bilateral treaty between the United States and Japan,
rather than form part of the Allied peace treaty with Japan. The
latter method, according to Mr. Tennant, would never the less be a
disputed peace and might in the future endanger the sympathetic
understanding of the Japanese people.

CLASSIFIED BY THE COMSEC
CONFIDENTIAL

100-260252
100-260252
100-260252

100-260252
100-260252
100-260252

天皇メッセージ

1947年9月20日

天皇が顧問の寺崎英成を通してマッカーサーに伝えられた文書の覚書（抜粋）

- ・米国が沖縄その他の琉球諸島の軍事占領を継続するよう、天皇が希望している。そのような占領は、米国に役立ち、日本に保護を与える。
- ・沖縄に対する米国の軍事占領は、日本に主権を残したままで長期租借—25年ないし50年あるいはそれ以上—と考えている。

1949年7月 1950年会計年度予算で本格的な沖縄基地建設予算が計上される

戦後の「皇民化」教育 団塊世代の体験

22

- 戦後教育に、師範学校出身の教師が携わる
- 入学式・卒業式で、「日の丸」「君が代」
- 「標準語励行運動」
- 「良妻賢母」(戦前の「伝統」)教育
- 1959年4月の皇太子結婚には、学校で小旗を作って「天皇陛下バンザイ」(宮城体験)
- 新築した家では、皇太子夫妻のポートレートを床の間の上に飾る

1957年1月1日

沖縄にも新民法を施行

「妻たちも人間に昇格した」

婦人待望の新民法施行

真に解放される女性

ごん権利義務への自覚が課題

● 民法は、家族関係の調整に役立つ。但し、その前提として、家族関係の当事者は、権利義務の自覚を有していることが必要である。従って、民法の施行は、女性に権利義務の自覚を促すことが課題である。

● 民法の施行は、女性に権利義務の自覚を促すことが課題である。従って、民法の施行は、女性に権利義務の自覚を促すことが課題である。

● 民法の施行は、女性に権利義務の自覚を促すことが課題である。従って、民法の施行は、女性に権利義務の自覚を促すことが課題である。

宝の特ちぐされにするな

沖縄連会長竹野光子さん



竹野さん

「民法は、家族関係の調整に役立つ。但し、その前提として、家族関係の当事者は、権利義務の自覚を有していることが必要である。従って、民法の施行は、女性に権利義務の自覚を促すことが課題である。」

「民法の施行は、女性に権利義務の自覚を促すことが課題である。従って、民法の施行は、女性に権利義務の自覚を促すことが課題である。」

「民法の施行は、女性に権利義務の自覚を促すことが課題である。従って、民法の施行は、女性に権利義務の自覚を促すことが課題である。」

「琉球新報」1957.1.6夕刊

1957年は戦没者の13回忌

戦死者の供養などで新興宗教
が増加、ユタに頼る人も増える

目に余る新興宗教とユタ

学校までおどす

「拜所つくらないと祟る」



「ユタ」 那覇市豊原には琉球中央神教という新興宗教が盛ん。信者はほとんどが婦人といわれる。『これら信者は、家畜に頼ることもない。』というところから、新興宗教の信者が、ユタに頼る人も増える。ユタは、神の力を借りて、人々の悩みを解決する。ユタは、神の力を借りて、人々の悩みを解決する。

「ユタ」 那覇市豊原には琉球中央神教という新興宗教が盛ん。信者はほとんどが婦人といわれる。『これら信者は、家畜に頼ることもない。』というところから、新興宗教の信者が、ユタに頼る人も増える。ユタは、神の力を借りて、人々の悩みを解決する。ユタは、神の力を借りて、人々の悩みを解決する。

「ユタ」 那覇市豊原には琉球中央神教という新興宗教が盛ん。信者はほとんどが婦人といわれる。『これら信者は、家畜に頼ることもない。』というところから、新興宗教の信者が、ユタに頼る人も増える。ユタは、神の力を借りて、人々の悩みを解決する。ユタは、神の力を借りて、人々の悩みを解決する。

新たな慣習＝“崇り”思想が加わる 沖縄の位牌継承の「タブー」

- 長男排除（チャッチ ウシクミ 嫡子押し込め）
- 兄弟が祀る（チョーデー カサバイ 兄弟重なり）
- 娘に継がせる（イナグ グァンス 女元祖）
- 娘婿に継がせる（タチー マジクイ 他系混交）

戦前の「家」制度が継承される

1960年4月28日 沖縄教職員を中心に「祖国」復帰運動



- 1945年 米軍、日本帝国旗・国歌を歌う者は処罰
- 1952年 私的な場所での「日の丸」掲揚認める
- 1961年 公共の建物で祝祭日のみ「日の丸」掲揚可

- 復帰運動に「日の丸」は欠かせなかった
- 学校では、教師が生徒の家庭の「日の丸セット」を共同購入



1965年8月 佐藤栄作首相来沖

27

沖縄県公文書館蔵



「日の丸」で歓迎しようと琉球政府前に集まった高校生(私もいたかも?)

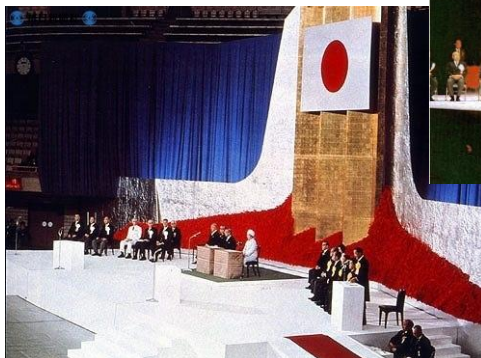
歓迎派と抗議派に分かれ、
「祖国」復帰要求の大規模
な座り込みも行われた

1972年5月15日

28

復帰記念式典(東京・沖縄同時開催)

東京・九段の日本武道館(天皇・皇后出席)



那覇市民会館(屋良朝苗知事は東京行きを辞退)

- ◆ 労働組合、政党、企業は中央へ系列化

女性たちが声を上げ始める―意識変革への道

- 1975年（昭和50） 国際婦人年
- 1976年（昭和51）～85年 国連婦人の十年
- 1980年（昭和55）「トートーメー（位牌）」は女でも継げるキャンペーン⇒位牌継承権で女性たちが提訴
- 1983年（昭和58）県職員の共働き規制問題起こる
- 1984年（昭和59）国籍法改正（父系血統主義から父母両系主義に）公布（翌1.1施行）。沖縄の無国籍児解消へ
- 1985年（昭和60）11月 うないフェスティバルはじまる（～2014年）

2002年
軍用地料分配で女性排除⇒26人が提訴

30

6月11日 土曜日			
金武区 金武山地区の会員資格を巡る推移			
	単身女性	結婚した女性	男性
裁判前	△ 50歳以上（夫死亡含む）の世帯主、一代限り※「特別会員」規定	× 金武区外の男性と結婚、夫が世帯主で会員資格がなかった女性たちが提訴	○ 全ての世帯主
裁判後	○ 「特別会員」規定撤廃、50歳未満を含めた全ての世帯主	△ 夫の死亡などで世帯主・夫が病気などで事実上の世帯主	○ 全ての世帯主
会則改正	○ 「代表者」として届け出	○ 「代表者」として届け出	○ 「代表者」として届け出

※いずれも、明治期の国有地買い取り当時から戦前まで、金武区内に住み金武山を利用していた住民の子孫

「沖縄タイムス」2022.6.11



「沖縄タイムス」2022.6.11一面見出し

門中制度＝ “疑似天皇制” の遺物

【男性の場合】

- 長男であるために、進学や就職で県外に出してもらえない
- 二男・三男の場合、親族の養子にされ、位牌を継承させられることがある

【女性の場合】

- 親の位牌が継げず、財産ももらえないことがある
- 結婚すると、男児の出産が要求される。二男、三男まで。
- 独身で死亡しても、実家の墓に入れない

【夫婦の場合】

- 男児が産まれないと、養子にする予定の親戚の男子の学費援助などをしなければならないことがある
 - 長男を産むと、離婚しても妻は死後、元夫の墓に入れられる
- ※1985年以降、沖縄の離婚率全国一位を独走

“伝統” の陰にオバアあり

- トートーメー、財産継承は長男にこだわる
- 長男を甘やかせる
- 「内孫」「外孫」のひいき格差
- 「息子2人以上産んで一人前の嫁」
- 地域・家庭の行事は嫁の役割⇒重箱の詰め方に注文も
- シングルマザーに厳しい共同体社会